

五味粥

飢ヲ相助ク、宮ニモ此等ヲ進セテ、二三日ハ過ケリ。

〔易林本節用集食古〕服五味粥

〔尺素往來〕於五味粥并饌飯者、由來聊不快之間、待高賓之時、先不須薦之云々。

〔新撰類聚往來上〕其羹名者付煎點

五味粥

〔成氏年中行事正月〕同月○正七日ノ朝御祝同前、御椀飯ハ自政所參、仍銀劔計參テ、御弓、征矢、沓、行

騰、御馬等ハ不參、内ノ御椀飯同前、其夜御五味粥參也。

〔俳諧歲時記冬〕十二月 温糟の粥臘八粥 臘八粥釋尊成道の日也、本朝の五山に於てこの義あり、又

なし、或は七寶五味の粥を贈る、これを臘八粥といふよし所見あり、

七種粥

〔倭訓前編十九〕な、くさ 七種の粥は、延喜主水司式、正月十五日供御七種粥料、米、粟、黍子、藁子、

蕪子、胡麻子、小豆と見えたり、拾芥抄には、大角豆、藁子、署預ありて、蕪子、藁子、胡麻子なし、公事根源

に、大豆、粟、柿、豇豆あり、黍、藁、藁、胡麻なし、

〔延喜式四十〕主水踐祚大嘗會解齋七種御粥料

米、粟、黍子、蕪子、藁子、胡麻子、小豆各三斗、鹽二顆、陶瓮、埴各七口、土塀七合、鏡形片坏各十口、阿世利盤

七口、洗盤四口、麻笥盤二口、中取案、切案各二脚、陶白土火爐各二口、炭二斛、白米九升、漿料著足、土塀

四合、瓮三口、炭六斗親王已下、五位已上通用、

○按ズルニ、七種粥ノ事ハ、歲時部年始雜載篇七日條及ビ十五日粥條ニ在リ、

紅糟粥

〔下學集下〕飲食紅糟

〔運歩色葉集宇〕紅糟

〔易林本節用集宇〕食服紅糟